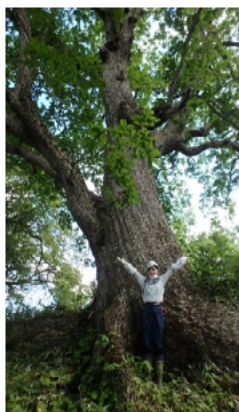


# も 林 の 話

第27話  
上川北部森林管理署  
音川 陽向

若手職員が森を語るコーナーです



下川町名木十選の巨大ニシ

上川北部森林管理署の位置する下川町は、人口3千人以下という小さな町ですが、林業を中心とした地域おこしをはじめ、環境モデル都市に認定されるなど、活気のあるスゴい町です。

【年較差60度の豪雪地域  
下川町】

※国有林職員の俗称

本コラムでは実際に森林の中で働いてみて感じたことを中心にお話したいと思います。

昨年4月に上川北部森林管理署班溪（ばんけ）森林事務所に赴任して、早くも2年目に突入しました。入庁1年目から憧れていた「山官」(\*)として、これぞ林野庁職員だと感じる仕事に携わり、充実した日々を過ごしています。

また、あのスキージャンプで有名なシエント葛西選手が生まれ育った町でもあります。

気温年較差はなんと60度。夏は30度、冬はマイナス30度にまで下がることもあり、厳冬期に現場に行き、作業をしていると、身の危険を感じる寒さです。

【森林をデザインする】

私の現在の肩書きは「森林官補」ですが、森林事務所で働くということは、数十年後の森林の姿をデザインすることだと思っています。

例えば、森林事務所での主な業務内容として、「林野巡視」や「地況林況調査」があります。「林野巡視」は事務所の数ある業務の中でも重要な仕事だと考えています。

林道や民地との境界を点検するだけでなく、担当部内の山をよく観察することで、どの山が良い山で、良い木材があるのか、その後

の保育作業（造林や保育間伐）を進める上で必要な情報を得ます。また、「地況林況調査」では、実際に森林内の蓄積量を調べます。木材の樹高や太さを調査し、今後の森林整備のための場所や量を決めます。

こうした業務は全て、山をどう管理したいか、どんな山に育てたいかという自分の意思がそのまま山の状態に何十年も先の未来まで反映される重要な仕事です。もちろん、森林経営・管理の方法に正解は無いため、自分の力量に任せられ、難しいと感じることも多々あります。しかしその分やりがいのあるスケールの大きな仕事だと思っています。

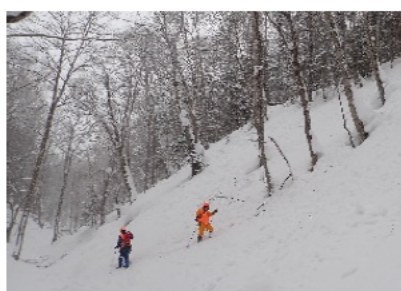
森林の現状は、現場を毎

日観ている私たちにしか分かりません。よい森林づくりを行うためには、山を観て回り、細かく記録し、これらを地道に継続することが大切です。これは現場最前線で働いている私たちにしかできないことだと思っています。

【長期的視点が必要な森林経営】

森林経営・管理は、長期的な視点が必要です。しかし、残念ながら国有林野職員の任期は大体3年前後と短期間です。任期を終えたら別の部署に異動します。せっかく継続してきた施策等がストップしてしまうことがないように、前任者との引き継ぎと森林管理の目標の共有が必要になります。

長期スパンで動く自然を相手にしていることを忘れず、付け焼き刃のような仕事をしないよう数十年先の未来を見据えた仕事を心がけ、日々の業務に精進したいと思っています。



冬期の地況林況調査